

日本語学会第 168 回大会 プログラム

会 長 定延 利之
大会運営委員長 松浦 年男
大会実行委員長 李 勝勲

期 日：2024 年 6 月 29 日（土）・30 日（日）

会 場：国際基督教大学（東京都三鷹市）

E-mail： seunghun@icu.ac.jp

※円滑な運営のため Peatix (<https://lsj168.peatix.com>) による事前受付・支払いへご協力願います。
※公開シンポジウムは無料でどなたでもご参加いただけます。また、大会後に録画を学会公式 YouTube チャンネルにて一般公開します。

—— 第 1 日（6 月 29 日） ——

10:30-12:10	評議員会	ダイアログハウス 国際会議室(2F)
12:00-	受付	トロイヤー記念アーツ・ サイエンス館(T 館) 2F
13:00-16:00	口頭発表（詳細は 2 頁にあります。）	A~D 会場
16:20-17:50	ポスター発表（詳細は 3 頁にあります。）	ダイアログハウス内食堂
17:50-18:30	参加者交流会（無料）	

—— 第 2 日（6 月 30 日） ——

9:00-	受付	T 館 2F
9:30-11:30	ワークショップ（詳細は 4-5 頁にあります。）	A~D 会場
12:10-12:50	会長挨拶，日本語学会学会賞授賞式，会員総会	T-171 教室
13:00-14:00	会長就任講演「より豊かな言語学をめざして」	
14:10-17:00	公開シンポジウム「言語理論とフィールド言語学によるデータの接点」 <司会・趣旨説明> 李 勝勲（国際基督教大学） <登壇者> 内原 洋人（東京外国語大学）「言語理論はフィールド言語学に資するのか：北米諸語の事例から」	
	伊藤 智ゆき（東京大学）「1970 年代韓国朝鮮語咸鏡道方言の音響音声学的研究」 中川 奈津子（九州大学）「フィールドデータとコーパスに基づく日琉諸語の研究」 古本 真（東京外国語大学）「スワヒリ語マクンドゥチ方言の記述における通時的視点」 山岡 翔（大阪大学／日本学術振興会）「フィールドで得た音声データと音韻理論の接点：ベトナム語を事例として」 品川 大輔（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）「パラメーター駆動形アプローチによるバントゥ諸語類型論：フィールドデータに基づく一般化に向けて」	

■口頭発表（6月29日(土) 13:00-16:00)

	A会場 T-229 教室 司会：[1-2] 小野 智香子, [3-5] 白井 聡子	B会場 T-270 教室 司会：[1-2] 矢野 雅貴, [3-5] 大滝 宏一
13:00-13:30	[A-1] 長谷川 朝香 イナリ・サーミ語の双数名詞句における一致について	[B-1] 鈴木 あすみ, 幕内 充, 小磯 花絵, 中村 仁洋 発話連鎖効力をもつ終助詞「よ」「ね」に対する応答のエントロピーと自閉傾向の相関
13:35-14:05	[A-2] 菱山 湧人 チュヴァン語における数量詞句と定形動詞の一致	[B-2] 磯野 真之介, 梶川 康平, 大関 洋平 日本語大規模読み時間コーパスにおける記憶の負荷のCCGによるモデリング
14:05-14:20	(休憩)	(休憩)
14:20-14:50	[A-3] 上野 瞭太 ソマリ語における2つの焦点構文により焦点化される構成素の統語的特徴	[B-3] 有賀 照道 アクセントの誤りがもたらす語の認知の阻害:意味プライミングによる検討
14:55-15:25	[A-4] 王 丹 ベトナム語の所有標識 <i>cua</i> と所有者の類別詞使用について	[B-4] 志村 瑠莉, 矢野 雅貴 日本語NPIの錯覚的認知はいつどのように起こるのか? —容認性調査と脳波計測を用いて—
15:30-16:00	[A-5] 馬 楷煬 閩南語の声母/h/の実現形と声調の関係について	[B-5] 峰見 一輝 時間的制約の異なる5種類の文容認性判断実験による文法的錯覚の生起メカニズムの検証

	C会場 T-328 教室 司会：[1-2]衣畑 智秀, [3-5] 黒木 邦彦	D会場 T-364 教室 司会：[1-2] 小町 将之, [3-5] 田川 拓海
13:00-13:30	[C-1] 重野 裕美, 白田 理人 北琉球奄美大島方言における尊敬接辞-timor-の地域差と変化について	[D-1] 高松 龍 Make Sure における下位範疇化素性の動的な拡張
13:35-14:05	[C-2] セリック ケナン, 麻生 玲子, 松波 雅俊 琉球列島における遺伝系統樹と言語系統樹の比較に向けて—言語系統樹の客観的作成手法を検討する—	[D-2] 小野 竜大 ボックス理論と移動要素の不可視性について
14:05-14:20	(休憩)	(休憩)
14:20-14:50	[C-3] Artemii KUZNETSOV Referential density in Japanese: a diachronic study	[D-3] 笠井 源 日本語の格脱落現象の再考～分散形態論からのアプローチ
14:55-15:25	[C-4] 西村 康平 『万葉集』二合仮名における母音挿入規則について	[D-4] 森田 千草 日本語の形容詞述語の項の統語的位置と格標示に関する一考察
15:30-16:00	[C-5] 横山 力玖斗 現代日本語における「のこと」と示差的目的語表示	[D-5] 岡村 康平 英語における屈折形態素 三人称単数現在の-s の脱落の要因に関する計算言語学的分析

■ポスター発表（6月29日(土) 16:20-17:50）

<p>P会場</p> <p>ダイアログハウス</p> <p>食堂</p>	[P-1] 岳 昱澎, 小川 芳樹 中国語の形容詞述語文における統語的な制約について	[P-2] 伊藤 さとみ, 石川さくら Verum 焦点と文強勢：中国語の副詞 ke の例から
	[P-3] 陳 凱僑 掲陽閩南語の後部変調におけるチェーンシフトと中和の様態	[P-4] 葉 晨傑 韓国語の -ki 名詞化と -m 名詞化の統語構造
	[P-5] 黒島 規史 現代朝鮮語における評価的意味を表す文法形式	[P-6] 鄭 宇鎮 状態変化自動詞に受身を表す形式が後接するとき－韓国語 -eci-構文の場合－
	[P-7] 川畑 祐貴 時間間隔における時間性とアスペクト性の交わり：韓国語の時間表現を中心に	[P-8] 陳 韻雯, 邱 曉石 活格言語における栄紅羌語と AP 配列
	[P-9] 牧 秀樹, ゼステルバ 属格主語が可能な言語の性質：格パターンと述語同一性	[P-10] 日高 晋介 キルギス語における補助動詞構造 -(l)p jat- [-CVB.SEQ lie-] の文法化形式 -bat について
	[P-11] 松山 芳瑛 チェコ語の関係節における代名詞残留—直接目的語位置に着目して—	[P-12] 楊 棟文, 徐 小曼, 小泉 政利 セデック語の語順頻度：コーパスに基づく分析
	[P-13] 徐 小曼, 楊 棟文, 小泉 政利 中心化学理論によるセデック語の談話の分析：指示表現の実現と態に着目して	[P-14] 山本 恭裕 イロカノ語の重音節重複のパターンに対する動機付け
	[P-15] 山田 洋平, バスバヤル ムンフダラム 現代モンゴル語の deer 「上」の後置詞としての意味と用法 —とくに与位格との対照から—	[P-16] 熊切 拓 アラビア語チュニス方言の語りにおける末尾の文について
	[P-17] 永井 慧 前置詞から見るペルシア語の他動性 —前置詞 az に着目して—	[P-18] Chihkai LIN A corpus-based approach to the reconstruction of Okinawan consonants in the 18th century
	[P-19] 中澤 光平, 麻生 玲子 日琉祖語*s に対応する南琉球八重山諸語の破擦音から考える音変化の自然性	[P-20] 松岡 葵 九州方言における「行く」を表す動詞に見られる不完全な補充法：福岡県柳川市方言を中心に
	[P-21] 新沼 史和, 新沼 清歌 ケセン語におけるサル表現と自他交替動詞の共起可能性再考	[P-22] 宮崎 順大, 牧 秀樹 個人および生成 AI の「が」・「の」主語嗜好性：文学作品と実験データに基づく初期研究
	[P-23] 大島 デイヴィッド 義和 日本語における無助詞項名詞句の生起に関わる情報構造的条件について	[P-24] 森 貞 複合動詞(V1+V2)の V2 に「始まる」・「続く」が生起する表現について－「V され {始まる/続く}」という表現を中心に－
	[P-25] 立野 寛太 名詞重複における「数々」の示す解釈：Higher-Order Implicatures を用いた分析	[P-26] 藤巻 一真 日本語の動詞句分裂文と動詞句前置の統語的共通点
	[P-27] 水野 庄吾 空間的場所表現の類型論：通言語的に妥当な新定義とそれに基づいた理論的考察	[P-28] 印 雨琪 日本語複動詞文における単節性と事象認知の関係：実証的アプローチ
	[P-29] Kyoko OGA VP-nominalization in non-subject honorification in Japanese	[P-30] 於保 淳 日本語における固有名詞を修飾する数量詞：強意表現としての分析
	[P-31] Shigeto KAMANO No-da construction and pragmatic presupposition	

■ワークショップ (6月30日(日) 9:30-11:30)

A 会場 T-229	[W-1] Ellipsis and Head Movement at the Syntax-Semantics-Pragmatics Crossroad: Japanese and Beyond 企画者・司会者：小林 亮一朗
	[W-1-1] Introduction Ryoichiro KOBAYASHI
	[W-1-2] Argument ellipsis, pragmatic enrichment and head movement: Why is Japanese so special? Yosuke SATO
	[W-1-3] Head movement does not necessarily affect scopal relations: Arguments from syntax and semantics Kenta MIZUTANI and Ryoichiro KOBAYASHI
	[W-1-4] Where to draw lines between syntax and pragmatics in ellipsis: Licensing of null arguments and adjuncts in Japanese Tomoya TANABE
B 会場 T-270	[W-2] 世界の言語の示差的項標示: 要因と機能に注目して 企画者：鈴木 唯, 諸隈 夕子 司会者：鈴木 唯 コメンテーター：諸隈 夕子
	[W-2-1] タガログ語の示差的目的語標示 長屋 尚典, 林 真衣
	[W-2-2] ガレ語の示差的 A 標示 吉田 樹生
	[W-2-3] ティディム・チン語の示差的 A 標示 周 杜海
	[W-2-4] ベンガル語の示差的受領者項標示 石川 さくら
C 会場 T-328	[W-3] 言語と非言語の時間生成—言語はなにをしているのか 企画者・司会者：嶋田 珠巳 コメンテーター：北澤 茂, 川畑 祐貴
	[W-3-1] 時間の理解の進化と発達 平田 聡
	[W-3-2] 時間を表す文法と語彙の要素 鍛冶 広真
	[W-3-3] 時間知覚と談話における参照点移行 嶋田 珠巳
	[W-3-4] 言語の脳内情報表現と時間スケール 西本 伸志
D 会場 T-364	[W-4] 使役事象の認知意味論：それは誰がしたことなのか 企画者：田中 太一 司会者：長谷川 明香 コメンテーター：西村 義樹
	[W-4-1] 使役の事象構造を考える 長谷川 明香, 田中 太一
	[W-4-2] 日本語の無生物主語他動詞文の「結果性」—「風が窓を叩く」を中心に— フルマノワ ポリナ
	[W-4-3] トルコ語における（非意図的）許容使役 ヤイルオール オガン
	[W-4-4] 認知言語学は使役についてどう考えるべきか 田中 太一, 松田 俊介, 長谷川 明香

◆会場配置図

キャンパスマップを以下の URL よりご覧ください (PDF もあります)

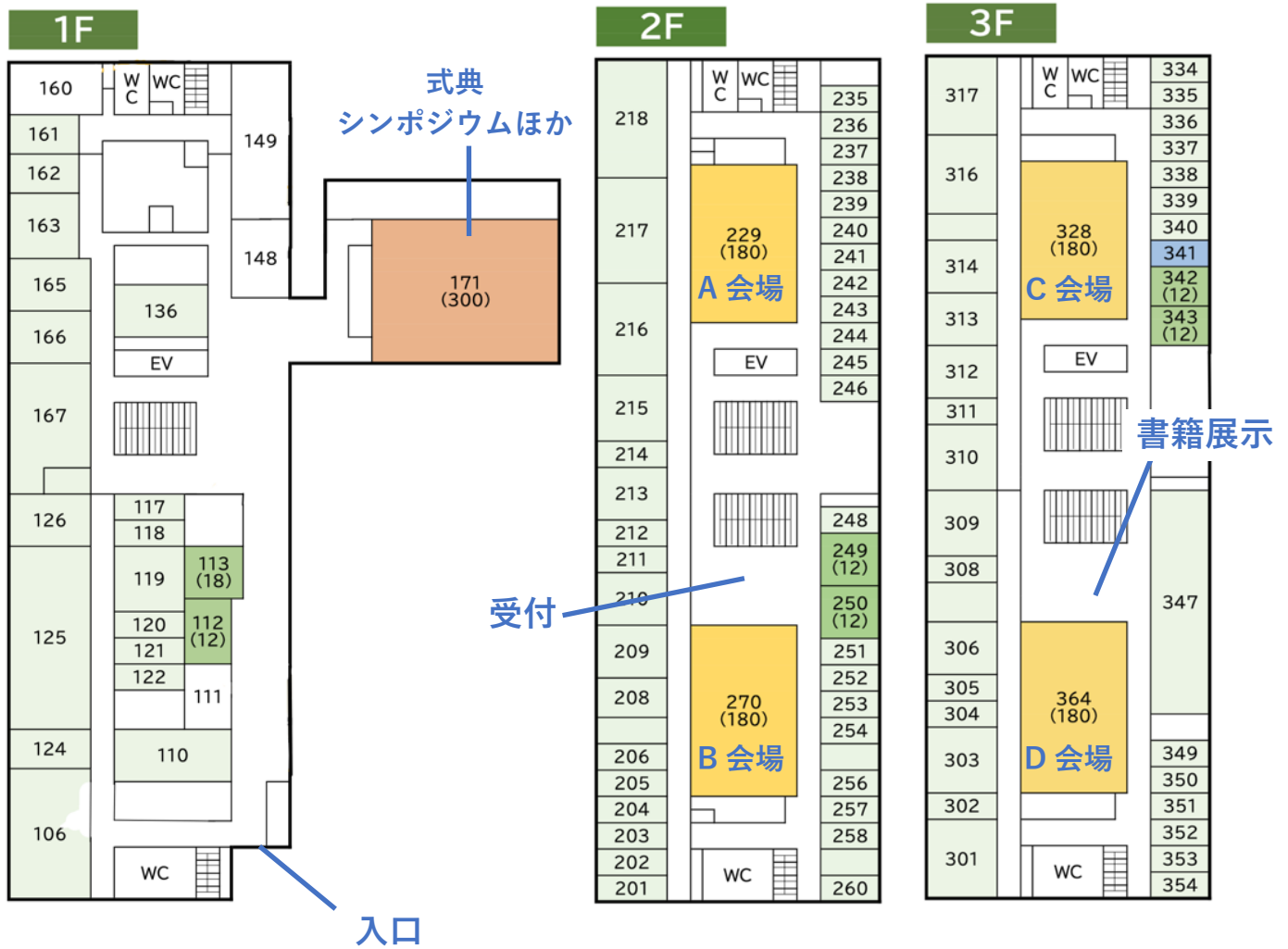
<https://www.icu.ac.jp/about/campus/>

会場は下記のとおりです。

- ② (トロイヤー記念アーツ・サイエンス館：T館) …口頭発表，ワークショップ，式典ほか
- ⑱ (東ヶ崎潔記念ダイアログハウス) …評議員会，ポスター発表，参加者交流会

トロイヤー記念アーツ・サイエンス館構内図

1Fの入口は構内図には最も大きなものを1つだけ明示しましたが，複数箇所にあります。



◆路線図・キャンパス周辺図

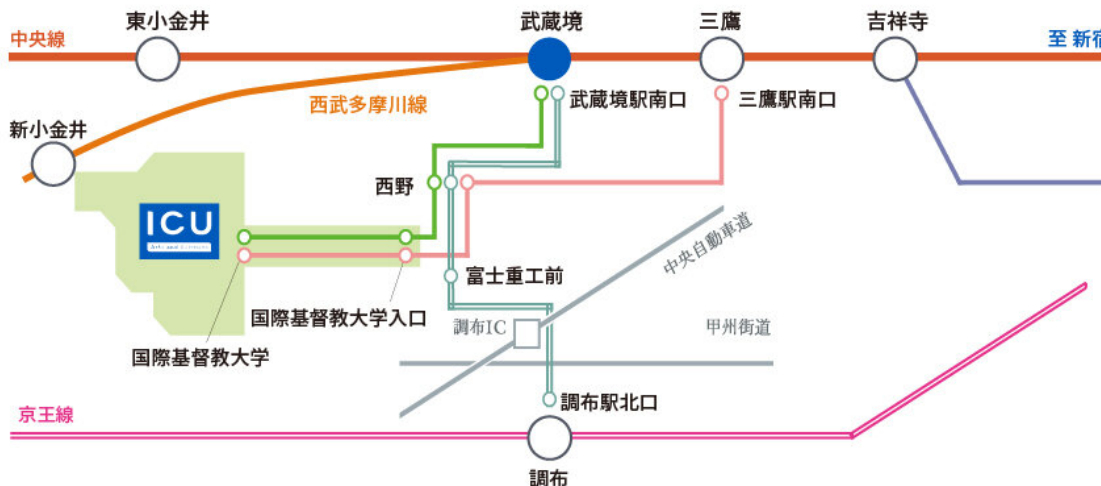
アクセスの詳細は以下の URL をご覧ください。なお最寄り駅からはバスの利用をお勧めします。バス停の位置等もリンク先にございます。

<https://www.icu.ac.jp/about/access/>

路線図



最寄り駅からのアクセス



お知らせ



◆参加登録および受付

大会参加費はオンライン（Peatix, 下記リンクまたは右の QR コード）または大会受付にてお支払いください。参加費は、一般会員 2,000 円、学生会員 1,000 円、一般非会員 3,000 円、学生非会員 2,000 円です。オンラインでの後日配信をスムーズにご覧いただくためにもオンラインでの事前登録にご協力お願いします（要アカウント作成）。

<https://lsj168.peatix.com>

◆予稿集

予稿集は大会の 1 週間前より学会ホームページから電子版予稿集（PDF ファイル）がダウンロードできるようになりますので、事前にダウンロードをお済ませください。紙媒体での予稿集頒布は行っておりません。

◆当日配付資料と動画閲覧ページ

今大会では当日配付資料（口頭発表・ワークショップのスライド等およびポスター）の共有ページを試行的に運用します。なお口頭発表・ワークショップの配布資料の公開は発表者の任意で、必ずしも全ての発表の資料が公開を保障しません。また、大会終了後 1 週間程度から期間限定で参加登録者のみに発表動画等を公開します。

◆出張依頼状

所属機関長宛の出張依頼状をご入用の方は、返送先を明記して切手を貼った返信用封筒を同封の上、5 月 31 日(金)(必着)までに学会事務支局までお申し込み下さい。

◆大会期間の昼食

日曜は大学内の食堂は営業していません。各自昼食をご準備下さい。

◆参加者交流会

初日のポスター発表終了後に同会場で参加者交流会を実施します。ソフトドリンクと簡単な茶菓子を提供します。無料でご参加いただけますのでふるってご参加下さい。

◆保育室の設置

保育室を設置します。保育室の利用を希望される方は、学会ホームページ「保育室の設置について」をお読みになった上で、5 月 29 日(水)までに保育室担当宛(lsj.childcare@gmail.com)に御連絡下さい。

- ・利用可能時間:6 月 29 日(土)12:45-18:30, 6 月 30 日(日)9:10-17:20
- ・料金:お子様 1 人あたり 1 時間につき 500 円

◆情報保障について

情報保障については、5 月 29 日（水）までに学会事務支局（lsj@nacos.com）にお問い合わせください。

◆書籍展示

書籍展示は、3F 廊下および教室にて行う予定です。詳細は当日ご確認ください。

◆資料展示コーナー

会員相互の情報交換のための資料展示スペースを用意します。会員に紹介したい学会、研究会、講演会のパンフレット等を置くことができますのでご利用下さい。(配布物は当日受付にご持参下さい。)

安全な大会実施のためにも現地参加の方は各自の判断で必要な対策をお取りください。

事務局からのお知らせ

日本言語学会では、2019年度より、言語学の研究・教育および学会運営にあたって依拠すべき倫理上の基本原則と理念を「日本言語学会倫理綱領」（以後「倫理綱領」）として定めました。制定に至った背景の1つに、2018年8月に開催された「夏期講座2018」で発生したハラスメント事件があります。学会として、このような事態を二度と起こしてはならないという強い決意のもと、倫理綱領制定のための部会で原案を作成し、常任委員会、そして評議員会で議論の上、制定した次第です。倫理綱領は研究大会を含む学会活動すべてに関わるものです。日本言語学会の会員であるかどうかに関わらず、倫理綱領を遵守していただくことが本大会参加の条件となることを認識いただいた上で、大会に参加いただきますよう、よろしくお願い致します。

倫理綱領の内容については、日本言語学会ウェブサイトを確認してください。

<http://www.ls-japan.org/modules/documents/rules/15.pdf>



次回大会予告（2024年秋季大会：第169回大会）

場 所：北海道大学 札幌キャンパス

日 程：2024年11月9日（土）・10日（日）

口頭発表、ポスター発表、ワークショップ、公開シンポジウム

※ 第169回大会は土曜日に公開シンポジウムとポスター発表、日曜日にワークショップと口頭発表を実施する予定です

研究発表募集：学会ホームページから発表申し込みができます。

- ・発表応募締め切り 2024年8月20日（火）（必着）
- ・採否通知 2024年9月中旬

問い合わせ先

日本言語学会事務支局 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入

Tel. (075) 415-3661, Fax. (075) 415-3662, E-mail: lsj@nacos.com